

# 全釧路情報

2015.8.14 No.13 全釧路教職員組合

## 原水爆禁止2015世界大会参加報告① 歴史の重み、連帯の意味を実感しました!

### ▼多くの仲間の思いと歴史の重みを感じて

8月4～6日の三日間、広島で原水爆禁止世界大会が行われ、全釧路教組からは斎藤書記次長が参加しました。大会への参加に当たっては、各組合員による訴えで集められた数多くの方のカンパによって参加することができました。被爆70年の節目であるこの年に、そして日本の平和な未来を守る正念場でもあるこの時に、平和運動の一翼を担ってきた世界大会への代表派遣を多くの組合員の奮闘によって実現できたことが、まず、大きな意義があったと思います。

4日の開会集会には3300名、6日のヒロシマデー集会には5500名が参加、釧根の代表団には高校生5名を含む23名が参加しています。河井先生も夫婦で参加しました。

開会集会では、釧根の代表団が登壇しアピールする機会がありました。高校生5名がマイクを持ち、釧根での取り組みについて元気に発言しました。長年釧根から代表を送り続け、平和運動を続けてきたことの積み重ねが、高校生5名を含めた代表団の参加、全12自治体の首長が原水協「核兵器全面禁止のアピール」へ署名という形となってあらわれているのだという歴史の重みを感じました。



## ▼世代、地域、国籍を超えた連帯の意味を実感

開会集会やヒロシマデー集会には様々な国の代表団も参加、発言しました。今年は中国の代表も登壇し、発言しています。核廃絶へのスタンスに多少の温度差はあっても、平和への願いを持ち、被爆者や様々な立場の方が集まるこの世界大会に参加するということが必ず今後の核廃絶につながる、意味のある一歩であったと感じています。



また、「アメリカは」「中国は」と一絡げに見てはいけなと、改めて感じました。日本にもいろいろな人がいるように、アメリカの中でも核廃絶への運動を熱心に取り組む人はたくさんいて、中国からも、世界大会で発言しようという人がいるのです。

集会では、壇上に、私たち釧根の代表団を含め、各地の代表が上がり、それぞれの取り組みと成果を交流しました。長い歴史に支えられた各地の様子を知るだけでも、元気が出ます。

夜は、毎日おそくまで語り合いました。初参加の若い人たちは、被爆者の話を聞いたり学習を進めていくにつれて、その感動を熱く語り合っていました。そこに何度も参加してきた人が加わって、カンパをくれた人の期待や歴史の重み、そして今後の自分の姿勢にどうつなげていくかが大切だといった話をしました。

若い人たちもベテランも、どちらも熱い思いを持って参加しています。ぜひ教組からも若い人を含め複数での参加を実現したいと思いました。そのためにも、「子どもたちに平和な未来を！」の思いをより強く、さらに広げていく取り組みを一層広げていく決意を新たにしました。

### ▼「火の記憶～広島原爆忌にあたり～」(木下夕爾)～平和への願いを風化させてはならない！

とある家の垣根から  
蔓草がどんなにやさしい手をのばしても  
あの雲をつかまえることはできない  
遠いのだ  
あんなに手近にうかびながら  
とある木の梢の  
終わりの蝉がどんなに小さく鳴いていても  
すぐそれがわかえるような激しさに変わる  
鳴きやめたものがいつせいに目をさますのだ  
町の曲がり角で  
田舎みちの踏切で  
私は立ち止まって自分の影を踏む  
太陽がどんなに遠くへ去っても  
あの日石畳に刻みつけられた影が消えてしまっても  
私はなお強く、濃く、熱く  
今在るものの影を踏みしめる



火の記憶～広島原爆忌にあたり～

木下夕爾

今年の「原爆忌」には本当にたくさんの方が広島に来ていました。そして、この時期には、テレビでも(あのNHKでさえも)戦争に関わる番組を放送します。

まさに、二連にある「蝉」のように、「わかえるような激しさに変わる」「鳴きやめたものがいつせいに目をさますのだ」というような状況です。

この「原爆忌」がくるたびに、戦争の「火の記憶」を思い起こし、平和への願いを再確認するというのも意味のあることです。

しかし、今の情勢を見た時に、「蝉」のように「原爆忌」のときだけ目を覚まし、時期が過ぎれば鳴きやむようなことであってはいけないとも思うのです。政権が目論む「時間がたてば国民も忘れるだろう」となってははいけません。

戦後70年たちました。四連にあるように、「太陽がどんなに遠くへ去っても」「影が消えてしまっても」、それでも「なお強く、濃く、熱く」、「今在るものの影を踏みしめる」ことを続けていくことが大切だと、今回の世界大会参加で感じました。

そして、それは「自分の影を踏む」のです。私の「自分の影」を踏みながら、自分の「人生の軌跡」に基づいた思いを発信し、自分だからできる行動をしていきたいと強く感じています。今、全釧路教組には、それを実行している人もたくさんいます。私も、がんばります！